

令和3年4月

令和3年度（2021年度）学校経営方針

町田市立三輪小学校
校長 高澤 善幸

1 基本方針

① 開かれた学校の実現（コミュニティスクールへの移行）

本年度は、学校運営協議会を設置し、コミュニティスクールへの移行をとおして、開かれた学校作りの実現を目指す。学校が保護者・地域と目標やビジョンを共有し、一体となって社会全体で子供たちを育む学校の実現を目指す。

そのために、日頃から学校の教育活動を公開し、情報発信に努め、学校の教育活動を理解していただくことを意識する。

② 変化に対応した教育活動の推進

新型コロナウイルス感染症の流行は、いまだ収まらず、感染症対策を講じながらの教育活動を継続していく。感染防止に努めつつ、昨年度蓄積した経験をベースにして、さらに児童のための教育活動の充実に努めていく。

町田市では、4月から一人一台の児童用タブレット端末の活用が始まる。コミュニティスクールや新たなまちとも（三輪とも）など、新しく始まることが多く、教育活動の質的、量的な変化が求められているが、柔軟に対応していく。

③ 子供たちの学校生活が充実したものとなるために

学校における主人公は子供である。一人一人の良さを見付けて伸ばす視点を教師がもつことを大切にする。個々の力を伸ばし、互いに認め合い、励まし合える関係を築きながら、子供たちの学校生活が充実したものとなるように努める。

重点目標は、本年度も『考え深い子供』を継続する。校内研究では理科・生活科での研究が2年目となる。昨年度の研究を土台として、自己肯定感を高めながら、主体的に考える児童の育成に努める。そして、子供たちの学び甲斐、三輪小学校への通い甲斐として子供たち自身が体得できるようにすることを目指す。

2 学校教育目標

憲法・教育基本法に基づき平和的な社会の形成者として、心身共に健やかな三輪小の子どもを育てる。

- たくましい子ども
- ◎考え深い子ども
- 心の豊かな子ども



3 目指す学校像

「子供の未来をひらく学校」

子供たちが互いに関わり、認め合い、高め合いながら、未来を切り拓く基礎作りをしていくことのできる調和のとれた学校を目指します。

- 子供一人一人が大切にされている学校
- 子供が自立して生きていくための基礎を身に付ける学校
- 集団生活をよりよく営むための規律を大切にする学校
- 保護者や地域の方から信頼され愛される学校

4 重点項目

今年も、子供たちの日々の活動を充実させることを重点とする。励まし、支える気持ちがあれば子供からの信頼を損なうことはないと感じて行動していく。学びを通して、できる喜び、わかる喜びを味わうこと、自分の考えが取り上げられることなど些細なことで子供たちは学びへの自信を深めていく。子供たち自身が、「自分は大切にされている」と実感できるようにしたい。子供たちを見つめ、育てていく中で、子供たちが自らの良さを自覚し、自尊感情を高めた上で伸び伸びと学べるようにする。

①一人一人の子供たちの力を伸ばす指導体制の充実

○基礎・基本の確実な定着

重点項目の繰り返し指導。ICT機器を活用し、家庭と連携したドリル学習、個別の指導、算数少人数学習などを通して、基礎的・基本的な事柄の定着を図る。

○子供たちの気付きに敏感であること

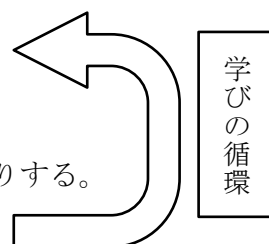
興味をもてば、自然と学びは広がっていく。そのための動機付けを意図的に行う。

○互いの考えを交流し、広く、深く

個々の発想を伸ばす視点を大切にしたい。三輪小がこれまで培ってきた『つながりタイム』を、子供たちの考えを広げ、深める機会として捉え、新型コロナウイルス感染症の流行状況下においても、できる形を工夫していく中で、深い学びへとつなげる。

- ◆自分の考えをもつ。
- ◆他の子と考えを交流する。
 - ・自分の考えとの相違を比較する。
 - ・似ている意見を観点ごとにまとめたり、分けたりする。
- ◆新たな考えを生み出す。(新たな課題を見出す)

自らの考えを広げたり、深めたりすることで「深い学び」との繋がりも見えてくる。



○体力の向上・健康教育

校庭は2学年ずつの利用から始め、感染症の流行状況に応じて、活動の形態を変えていく。日々の体育の授業を効果的に行うと共に、全校的な取り組みの中で、子供たちの体力向上に努め、体を動かす習慣作りへの意識を高めていく。

また、様々な感染症予防に努め、「命を守る活動」として、手洗い、うがい、マスク着用、密を避ける行動など、子供たち自身が日々実践できるよう習慣付ける。さらに、「早寝・早起き・朝ご飯」など、規則正しい生活習慣を身に付ける。食育や保健指導と並行して、健康な生活を意識付ける。

○子供の変化を感じ取るアンテナを伸ばす。

いじめや不登校は、早期発見、早期解決が重要。心のアンケートの活用と共に、日々の子供の表情の変化に敏感でありたい。気になるケースは、校内委員会で話し合いサポート体制を考えていく。

○豊かな心を育む

互いに認め合い、高め合う関係を作る。週に一時間の『特別な教科道徳』における指導を大切にしながら、あらゆる場面で考えさせていく。道徳では、行動の変化を見るのではなく、どのような価値に触れ、何について考えたかを中心にみていく。

○基本的な学習規律について共通理解した指導

「学校生活のきまり」を基にして、集団生活を送る上で守らなければならない約束ごとを、いつでも、どこでも、だれでも、共通した指導を行うことを心がける。

○怪我・事故への対応

- ・まずは、起こさないための取り組みを考える。(具体的で分かりやすく)
- ・発生したら、優先すべきは子供たちへの対応。
- ・再発防止策。原因究明、今後起こさないためにも起きたことを共通理解する。

○特別支援教育の推進

スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど、専門的な立場の方の協力を得ながら、特別支援教育専門員、特別支援教育支援員、サポートルームの教職員と連携し、一人一人のニーズに基づいた教育活動を行う。

②子供たちを見守り、育てる環境作り

○学び合う教師集団

教育のプロとして、公務員としての自覚と自己研鑽に励む。「三輪小の子供たちをどう育てていくか」教職員全体で考え、組織として力を発揮していく。

○保護者との連携

保護者の疑問に、一つ一つ丁寧に答えていく。新型コロナウイルス感染症により、保護者が学校に来る機会が限られるようになったため、積極的な情報発信に努める。

○地域との連携（ふるさと教育）

年間計画に基づき、ボランティアコーディネーターと連携を図りながら実施する。里山を中心とした自然や地域人材は、他校にはない『三輪小ブランド』である。様々な体験活動を『ふるさと教育』として実施し、子供たちの豊かな情操を培う。

○様々な人たちの力を借りて

学年への相談はもとより、家庭への連絡、スクールカウンセラーの活用、場合によっては子供家庭支援センターや児童相談所、スクールソーシャルワーカー、医療機関など、専門家に相談していく。令和3年度より、不登校初期支援アウトリーチの活動も始まる。関係機関や人材を効果的に活用していく。

○コミュニティスクールの運用開始

2021年度から、町田市内の学校は、すべてコミュニティスクールが始まる。これにより、学校教育の活動をこれまで以上に発信し、理解していただくよう努めることが求められる。学校を開き、地域、保護者と共に子供たちを育てていく。

③新学習指導要領・町田市教育プラン等、様々な状況への対応

○カリキュラム・マネジメント

『ふるさと教育』を教科指導の柱として据え、他教科・領域との関連を図って指導していくことで、三輪小学校の特色を生かした教育活動を展開していく

○外国語・外国語活動

令和3年度、高学年は担任と講師による授業、中学年は担任による授業として実施。ALT・MEPSと連携を図り、放課後英語教室も活用して英語教育を実施する。

○プログラミング教育

プログラミング教育の指導計画に基づいて実施していく。

○ICT機器の活用

児童用タブレット端末が一人一台配布される、子供たちに活用できる力を育てていく。家庭へも持ち帰り、子供たちに効果的、効率的に個別最適化された学習が提供できるように努める。また、保護会や授業のオンラインによる公開も進めていく。

○新まちとも（三輪とも）の運用開始

平日の放課後は毎日5時まで実施（雨天時も実施）。校庭と校舎内が活動場所となる。運営状況を見ながら、適宜実施の方法を改善していく。

○開校40周年に向けての準備

令和4年度（2022年度）に40周年記念に向けて必要な準備をしていく。

○教材費の集金について

町田市全体で教材費の引き落としのシステムを整えて実施する。

○体育館工事について

2学期より、体育館の空調工事が始まることを踏まえ、体育を計画的に実施する。体育の時間が制限されるため、体育館を使用した行事(学芸会)は本年度行わない。